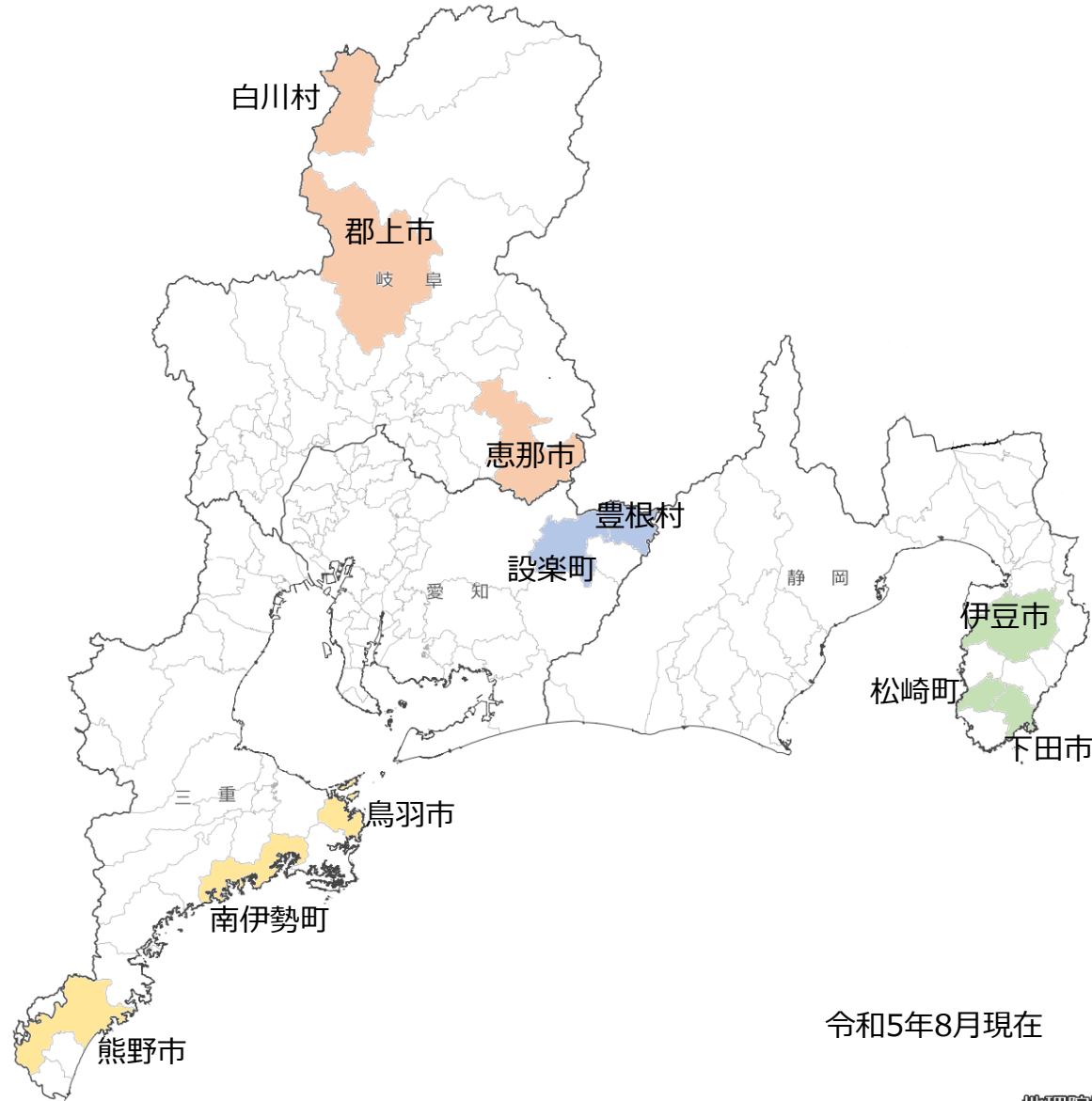


財政融資資金（辺地債・過疎債）を活用した地域振興事例



地理院地図

愛知県	事業名	掲載年
豊根村	富山場外離着陸場建設事業	令和3年
設楽町	道の駅したら整備事業	令和4年
豊根村	茶臼山高原スキー場リフト改修事業	令和5年

岐阜県	事業名	掲載年
恵那市	移動販売車運行支援事業	令和3年
郡上市	郡上カンパニープロジェクト推進事業	令和4年
白川村	茅育成事業	令和5年

静岡県	事業名	掲載年
松崎町	旧依田邸整備事業	令和3年
下田市	下田市統合中学校整備事業	令和4年
伊豆市	市民農園管理事業	令和5年

三重県	事業名	掲載年
鳥羽市	神島小・中学校建設事業	令和3年
南伊勢町	種苗生産事業	令和4年
熊野市	世界遺産熊野古道館整備事業	令和5年

※ 事業名をクリックすると紹介ページに移動します

富山場外離着陸場建設事業

愛知県北設楽郡豊根村

(令和3年6月掲載)

事業の概要

急峻な地形で、村役場から車で片道1時間程度の時間を要する富山地区は、土砂災害警戒区域等に指定されている箇所が多数あり、度々、大雨による道路寸断が発生し、集落の孤立を招いている。

また、救急患者が発生した場合、地理的な事情により、救急医療機関へ陸路による迅速な搬送が困難となっている。

場外離着陸場（ヘリポート）の整備により、救急医療機関への搬送時間が大幅に短縮され、災害や救急患者が発生した場合の迅速な対応が期待される。

事業実施にあたっては、資金の一部として、財政融資資金（辺地対策事業債）が活用されています。

■ [豊根村HP](#)



道の駅したら整備事業

愛知県北設楽郡設楽町

(令和4年6月掲載)

事業の概要

設楽町の南の玄関口として国道257号沿いに新設された「道の駅したら」は、郷土資料館である奥三河郷土館と食事や地元産品を販売するエリアの他、旧豊橋鉄道田口線の車両が展示されており、他の道の駅とは趣が少し異なります。

設楽町が平成28年から令和3年にかけて整備し、令和3年5月にオープン、地域振興の拠点として、地場産業育成や雇用機会の拡大に資する施設となることが期待されています。

なお、この施設整備資金の一部として財政融資資金（過疎対策事業債）が活用されています。

■ [道の駅したら公式HP](#)



茶臼山高原スキー場リフト改修事業

愛知県北設楽郡豊根村

(令和5年8月掲載)

事業の概要

愛知県北東部に位置する豊根村は、静岡県、長野県に隣接しており、愛知県最高峰の茶臼山に県内唯一のスキー場である茶臼山高原スキー場を有しています。茶臼山高原は、天竜奥三河国定公園に指定されており、春は芝桜、夏は避暑地、秋は紅葉、冬はスキー場と四季を通じて楽しめる県内有数の観光地です。茶臼山高原の観光用リフトで、スキー場、芝桜の咲く丘、南アルプスを望むデッキ、展望台にアクセスすることができます。

観光用リフトの設置から30年以上が経過し、老朽化による各種機器の更新が必要となったことから、令和3年から4年にかけてリフト改修工事を実施。より安全・快適に茶臼山高原を楽しんでもらうことで、更なる地域活力の向上や観光客数の増加が期待されます。

事業実施にあたっては、工事資金の一部として、財政融資資金（辺地対策事業債）が活用されています。

■ [豊根村HP](#) ■ [一般財団法人茶臼山高原協会HP](#)



移動販売車運行支援事業

岐阜県恵那市

(令和3年6月掲載)

事業の概要

恵那市は、恵那市恵南商工会と協定を締結し、商工会員が行う移動販売の運営費用の一部について、補助金を交付しています。

当該事業では、買い物に不便な中山間地域において、生鮮食料品や生活日用雑貨を販売し、特に高齢者の生活維持の一助となっているほか、近年では年間200日以上実施されており、交流の場の創出にもつながっています。

事業実施にあたっては、運営資金の一部として、財政融資資金（過疎対策事業債）が活用されています。

■ [恵那市恵南商工会HP](#)



郡上カンパニープロジェクト推進事業

岐阜県郡上市

(令和4年6月掲載)

事業の概要

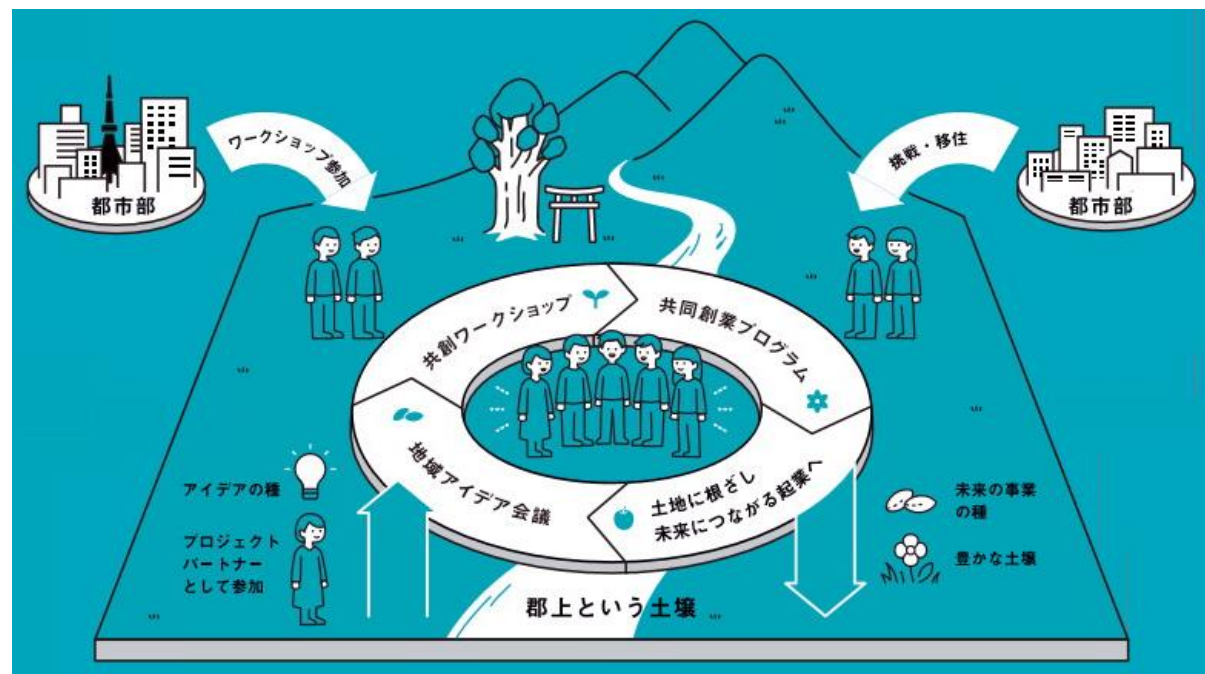
郡上カンパニーは、地域課題の解決につながるような新しい仕事づくりに挑戦する取り組みです。

仕事づくりは、地元の発案者（事業家や地域住民）と郡上市への移住者が共同で取り組み、市役所と事務局がサポートしています。

事業を通じて「移住促進」と「地域課題解決（新規雇用創出）」の両方の実現が期待されています。

事業実施にあたっては、活動資金の一部として、財政融資資金（過疎対策事業債）が活用されています。

■ [郡上カンパニー](#)



茅育成事業

岐阜県大野郡白川村

(令和5年8月掲載)

事業の概要

白川村には、江戸時代からの家並みが残る「合掌造り集落」があり、平成7年にユネスコ世界文化遺産に登録されるなど、毎年多くの観光客が訪れています。

合掌造りの屋根には茅が葺かれており、毎年4～5棟の葺き替えを実施しています。そのためには約2万束の茅が必要ですが、現在はその茅のほとんどを村外に依存している状況です。

こうした中、当村は茅の村内自給を目指し、茅場の造成や茅の刈り取りの機械化に取り組んでいます。特に機械化においては、刈り取った茅を束ねなおす作業が必要で、令和4年度に茅作業施設を新設しました。

事業実施にあたり、この茅作業施設の工事資金の一部として、財政融資資金（過疎対策事業債）が活用されています。

■ [白川村役場HP](#)



旧依田邸整備事業

静岡県賀茂郡松崎町

(令和3年6月掲載)

事業の概要

旧依田邸は、静岡県指定有形文化財に指定されており、開拓姉妹都市の北海道帯広市と関係の深い重要な建物となっています。

松崎町では、観光・文化交流拠点として旧依田邸エリアの整備を進めており、地域活性化を担う場として期待されています。

これまでに駐車場や日帰り温泉施設、無線LAN環境の整備等を実施しており、これらの事業について財政融資資金（過疎対策事業債）が活用されています。

- [松崎町HP](#)
- [NPO法人伊豆学研究会HP](#)



下田市統合中学校整備事業

静岡県下田市

(令和4年6月掲載)

事業の概要

下田市では、中学校において、生徒数の減少及び施設の老朽化が進行していることから、学習環境の維持・充実を図ることが難しくなっていることが課題となっていました。

こうした課題に対応するため、市内の中学校4校を1校に統合する事業を実施し、令和4年4月に新中学校を開校しました。これにより、学校・学級の小規模化の解消による生徒間の多様な交流の確保や、学校施設に係るコスト縮減が期待されています。

事業実施にあたっては、工事資金の一部及びスクールバスの購入費として、財政融資資金（過疎対策事業債）が活用されています。

■ [下田市HP](#)



市民農園管理事業

静岡県伊豆市

(令和5年8月掲載)

事業の概要

伊豆市では農業に従事していない人向けに農業ができる場を貸し出すとともに、農作業の指導を受けられる場として市民農園を整備しています。

市民農園の活用により、農業への理解促進や地域の活性化のほか、移住希望者等へ自然豊かな土地での暮らしを満喫できる機会の提供等が期待されます。

事業実施に当たっては、施設整備工事資金の一部として、財政融資資金（過疎対策事業債）が活用されています。

■ [伊豆市HP](#)



神島小・中学校建設事業

三重県鳥羽市

(令和3年6月掲載)

事業の概要

伊勢湾口に位置する人口300人余りの鳥羽市「神島」は、三島由紀夫の小説「潮騒」の舞台としても知られています。

神島小学校、中学校の旧校舎は、老朽化が進むとともに津波浸水被害が想定されることから、海拔21mの高台に小・中学校一体の校舎として移転しました。今後グラウンド・遊具等の整備を行う予定です。

高台移転による地震・津波発生時の被害軽減のみならず、日本文化への親しみ、情操教育などにも配慮した三重県産ヒノキの暖かみを感じられる木造2階建て校舎とすることで、児童・生徒の学習環境の向上が期待されています。

事業実施にあたっては、工事資金の一部として、財政融資資金（過疎対策事業債）が活用されています。

■ [鳥羽市HP](#)



種苗生産事業

三重県度会郡南伊勢町

(令和4年6月掲載)

事業の概要

南伊勢町は海岸線の延長が245.6kmにも及ぶリアス式海岸を有し、複雑に入り込んだ湾と数多くの島々により形成されています。県内でも有数の水産物生産地です。

町内では魚介類などの水産資源の減少、魚価の低迷、燃油価格高騰などの影響により水産業の経営環境が悪化していることなどから、若年の就業者が少なく、高齢化が進んでいるため、漁業者の所得向上と安定化が必要となっています。町内2か所の種苗センターにおいて、カサゴ、アワビなどの種苗生産及び稚貝の飼育試験などを実施することで、漁場環境の整備や水産資源の保全と育成に努め、漁業者の所得向上と安定化の実現を図っています。

事業実施にあたっては、資金の一部として、財政融資資金（過疎対策事業債）が活用されています。

■ [南伊勢町HP](#)



世界遺産熊野古道館整備事業

三重県熊野市

(令和5年8月掲載)

事業の概要

三重県南部に位置する熊野市は、温暖多雨な気候と豊かな自然に恵まれ、松本峠や大吹峠などの熊野古道が世界文化遺産に登録されています。

本事業では「紀南ツアーデザインセンター」として活用されていた旧奥川邸を熊野古道や熊野市の特産品などについて触れて学べる、展示・体験施設「世界遺産熊野古道館」として改修しています。施設内には、コワーキングスペースも用意されており、地域の人と観光客が交流できるようになっています。

令和4年度中に整備し、令和5年4月にオープン、周辺施設との連携強化により、中心市街地へのさらなる誘客・周遊等の促進につながることが期待されています。

事業の実施に当たっては、資金の一部として財政融資資金（過疎対策事業債）が活用されています。

■ [熊野市HP](#)

